

マダコ（関門海峡たこ）の生態に関する研究

研究部

背景、目的

北九州関門海域のマダコは、「関門海峡たこ」として商標登録が行われ、ブランドの定着を図るべく販売に力を注がれています。その一方で、一部の漁業者や遊漁者により成熟前の小型個体が漁獲され、資源管理や有効利用の面で課題があります。

そこで、関門海域のマダコ資源を持続的に利用するため、その生態について調査を行い、資源管理のための基礎資料としました。



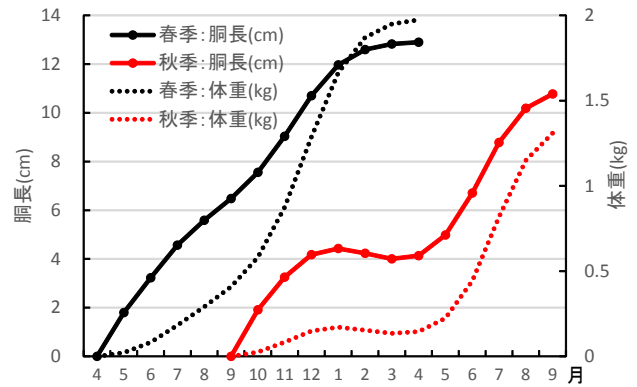
ブランドロゴ

成果の概要

(1) 成長

関門海域のマダコには、春と秋にそれぞれ産卵・ふ化する2つの群が存在することが明らかになりました。より大型になる春季生まれ群では、1年で胴長13cm、体重は約2kgまで成長します。また、最大で1ヶ月に約400g増重し、冬季には成長の停滞がみられました。

なお、寿命は約1年と推定されました。



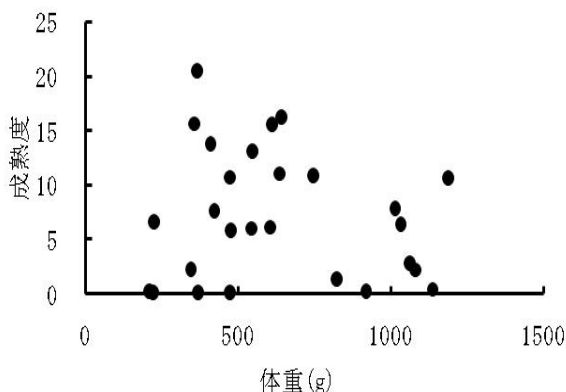
産卵・孵化群別の成長曲線

(2) 成熟

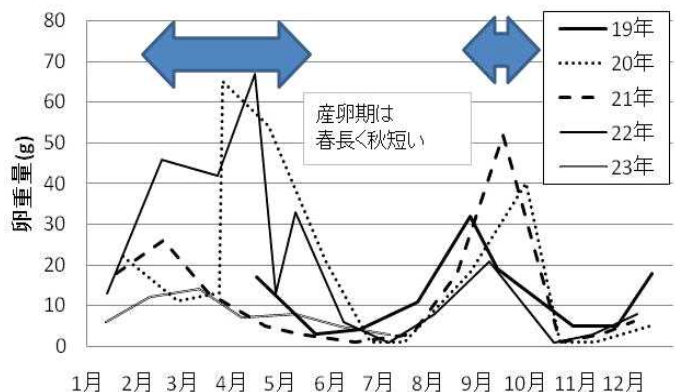
体重と成熟度の関係を見ると、関門海域のマダコはおおむね400gを超えた個体が産卵することが明らかになりました。また、時期別の卵重量の測定結果から、3～5月と9月に産卵のピークがあることもわかりました。

これらの結果を受け、漁業調整委員会では、未成熟個体の乱獲を防止するため、北九州関門海域における400g未満のマダコの採捕を禁止する委員会指示を発動しました。

また現在、漁業者は、上記の産卵ピークに合わせて保護用の産卵つぼを投入し、マダコの再生産、増殖に取り組んでいます。



体重と成熟度の関係



卵重量の月推移